

令和3(2021)年6月14日

文部科学省

「高等学校における日本語指導の在り方に関する検討会議」

第2回会議 報告

# 神奈川県立A高等学校における 日本語支援の取り組みについて

---

神奈川県立座間総合高等学校

校長 額田豊一

# 日本語支援が必要な生徒対象の入学者選抜

○「在県外国人等特別募集」一般募集と別枠で選考

○A高校の場合

令和3年度入学者選抜では一般募集 228名 在県外国人等特別募集 10名

○神奈川県公立高等学校入学者選抜において平成6年度(1994年度)入学者選抜から実施

○志願資格 外国籍を有する人(難民と認定された人を含む)、

または日本国籍を取得して3年以内※の人で、

いずれの場合も入国後の在留期間が3年以内※の人(受検年の2月1日現在)

→※令和4年入学者選抜から6年以内に

○実施校 県立高校全日制10校 定時制1校

横浜市立高校全日制2校 計13校で実施 定員145名

○実施方法 英語・国語・数学と面接 問題はルビ付き

(一般募集では英語・国語・数学・理科・社会と面接)

**在県枠の生徒の出身国** ☆出身国が多様化している傾向

1 期生	中国(8) フィリピン(1)
2 期生	中国(5) ペルー(2) フィリピン(1) 韓国(1) ブラジル(1)
3 期生	中国(5) ベトナム(3) ブラジル(2) ウクライナ(1)
4 期生	フィリピン(5) 中国(2) 韓国(1)
5 期生	中国(4) 韓国(1) フィリピン(1) ベトナム(1) メキシコ(1)
6 期生	中国(4) ベトナム(2) イラン(1) フィリピン(1) タイ(1) ロシア(1)
7 期生	中国(4) タイ(2) フィリピン(1) ベトナム(1)
8 期生	中国(4) フィリピン(2) インド(1) スリランカ(1) 日本(1) ベトナム(1)
9 期生	中国(3) ネパール(3) ブラジル(1) フィリピン(1) ベトナム(1)
10 期生	フィリピン(5) 中国(3) スリランカ(1) フィリピンとスリランカのダブル(1)
11 期生	中国(3) フィリピン(3) スリランカ(2) インドネシア(1) ベトナム(1)
12 期生	中国(4) フィリピン(4)
13 期生	中国(3) ブラジル(2) カンボジア(1) スリランカ(1) パキスタン(1) フィリピン(1) ペルー(1)
14 期生	ブラジル(3) フィリピン(2) ベトナム(2) スリランカ(2) 中国(1)
15 期生	中国(4) ペルー(2) ブラジル(1) コロンビア(1) スリランカ(1) ペルーと日本のダブル(1) アルゼンチンと日本のダブル(1)

在県枠以外にも一般募集枠で入学した外国につながる生徒が多数在籍している。外国につながる生徒（日本国籍含む）は毎年、全校で 70～80 人程度在籍する。

# 在県外国人等特別募集で入学した生徒への支援のおおまかな流れ

2月 [在県外国人等特別募集の入学者選抜] 学力検査の英語・国語・数学(ルビ付き)と面接を実施。

[合格発表] 特別募集の生徒は、別ブースで実施  
後日、中学校やフリースクール等へ合格者に関する聞き取り調査(6ページ参照)。

3月 [プレイスメントテスト](7ページ参照)

合格者に対し、各教科でその教科にかかわる日本語能力を把握するとともに、個別対応授業が必要かどうかの判定をする。生徒本人の希望ではなく、教科で判断する。

[入学予定者説明会](保護者同伴) 特別募集の合格者は、別会場で通訳をつけて実施する。

4月 [入学時] 多文化教育カード(8ページ参照)(新入生全員)の提出(国籍・在留資格等の把握)

[在県枠生徒新入生歓迎会] 国際交流委員と在県枠生徒上級生による歓迎会。

[在県外国人生徒支援会議(在県支援会議)](9ページ参照)

在県クラス担任・未来企画G・学習支援G・キャリア支援G・生活支援G・多文化教育コーディネーターで構成。  
日本語講師もオブザーバー参加。学習、生活、キャリア面における支援等を話し合う。

[日本語補習開始] 日本語講師、学習支援員、常勤教員で補習を実施。  
週3回 放課後1時間半程度。  
学習習慣をつけることも目的の一つ。

6月 [3年三者面談] 通訳を入れることが原則。

7～8月[1・2年三者面談] 通訳を入れることが原則。

7月 日本語能力試験受験

11月 [国際フェスタ] 在県生徒によるプレゼンや落語、スピーチなど。

12月 日本語能力試験

3月 [在県支援会議] (新1年に関する業務と同時並行で)

外国につながる生徒予備調査用紙

生徒氏名		男 ・ 女			
国籍	※日本国籍の場合はつながる国	母語	※母語以外に英語等の使える言語があれば記入		年齢
住所 TEL	( )				
在学 中学	中学校	在学 期間	中学 年 月に編入	担 任	
住所 TEL	( )				

I 現在の日本語力について

●文字

ひらがな 読む できない・少し・だいたい・できる 書く できない・少し・だいたい・できる

カタカナ 読む できない・少し・だいたい・できる 書く できない・少し・だいたい・できる

漢字 読む できない・小学校 ( ) 年生程度・中学校 ( ) 年生程度・できる

書く できない・小学校 ( ) 年生程度・中学校 ( ) 年生程度・できる

●会話 0. あいさつ程度 1. 単語のみ 2. ゆっくり&言い換えが必要 3. 不自由なし



●文章 (漢字の能力は除く)

読む 0. できない 1. 短い文が分かる 2. お知らせのプリントが分かる 3. 教科書が理解できる



書く 0. できない 1. (間違いはあるが) 意味の分かる短い文を書ける  
2. (間違いはあるが) まとまった文章を書ける 3. 日本人生徒とほぼ変わりなく書ける



II 日本語の学習歴について

いつ (期間・頻度) どこで 誰と 何を (使用テキスト・内容)

III 各教科の学習状況について

科目	授業形態	行われた手当て (リビ付きプリント、補習など)	備考 (理解度、学習意欲など)
国語	一般・取出し		
社会	一般・取出し		
数学	一般・取出し		
理科	一般・取出し		
音楽	一般・取出し		
美術	一般・取出し		
体育	一般・取出し		
家庭	一般・取出し		
英語	一般・取出し		

IV その他

学校生活	友人関係、トラブル、宗教や食べ物、アレルギー等の配慮など
家庭	家族構成、来日経緯、将来設計、家庭内で主に使う言語など
保護者	保護者とのコミュニケーションは… ( ) 語の通訳を介して or ( ) 語で or 日本語で 保護者の学校への関心・理解度、連絡の取りやすさなど
備考	懸念事項など

## プレイスメントテストについて

**目 的** 在県外国人等特別募集枠で入学予定の生徒、5号申請受検で合格、入学予定の生徒の日本語力などを調べる。入学後に個別対応授を必要とするかどうかを判断するための参考資料とし、また、入学後の教科指導に役立てる。

**内 容** ○日本語力判断テスト

○日本語による作文

○教科ごとの個別対応授業判定(各教科2名で対応)

日本語・国語・地歴公民・数学・理科・保健体育・芸術・外国語・家庭・情報

各教科の教科書などを見せて理解度を見る、小テストを実施

個別対応授業の希望を聞くなどして、参考とする

**判 定** 終了後すぐ、各教科の担当者は原案を作成し、教科会で確認。教科会後に今回の担当で「プレイスメントテスト判定会議」を行い、特に問題がなければ決定する。

### 注意点等

- (1) このテストは、その生徒にクラスでの一斉授業に耐えうる日本語の力があるかどうかを判断し、また、今後の教科指導に役立てるために用いるものなので、外国語科で必要な場合以外は、生徒の母語を用いての質問はしない。
- (2) 生徒個人が個別対応授業を希望するかどうかはあくまで参考とし、全体のバランスも見て、教科として判断する。
- (3) 入学予定者説明会に関する連絡事項  
・必ず保護者と一緒に来てほしいということ  
・必要な通訳を用意してあること  
・学校のきまりや諸手続き、諸書類の記入について説明すること  
・「新入生ガイドブック」、「在留カード」を持参すること
- (4) 事前の準備  
合格者の在籍する各中学校や日本語スクールなどに、生徒の日本語力や中学校での様子、家庭環境など、今後の高校生活において必要と思われることを、可能な限り詳しく聞く。これをもとにプレイスメントテスト前の資料を作成する。

# 多文化教育カード

## 多文化教育カードについて

本校には、外国籍の生徒の特別枠があり、様々な外国出身の生徒が在籍します。また保護者が外国出身の生徒や、日本の国籍でも外国で教育を受けてきた生徒など、外国につながるのある生徒が毎年入学しています。

外国籍の生徒の場合、指導要録や調査書、卒業証明書、成績証明書などの公文書に記載する名前は住民票や在留カードと同じように、アルファベット表記となります。そのためには、皆さんの名前を正確に知る必要があります。

また、皆さんが入学後に、日本語教育・保護者への通訳支援・在留手続きの際の出席扱い・進路(進学・就職)・奨学金の手続きなど、国籍や言語をふまえた上で適切な支援を行っていくためにも、多文化

教育カードの提出をお願いします。

なお、公平に情報を集めるために、外国につながるのある、なしにかかわらず、入学を予定する全員の方にご記入をお願いします。封筒に入れ封をして提出してください。

このカードは、指導要録など公文書記入するための資料として使用します。

正確な情報を集めるために、外国につながるのある、なしにかかわらず、入学を予定する全員の方にご記入をお願いします。封筒に入れ、封をして提出してください。

ねんじ 1年次	くみ 組	ばん 番	ねんじ 2年次	くみ 組	ばん 番	ねんじ 3年次	くみ 組	ばん 番
フリガナ			①					
せいと なまえ せいしきめい 生徒の氏名(正式名)			② ※公文書に記載する名前です					
フリガナ			③ ※クラスなどで使う名前です					
せいと こくせき 生徒の国籍			せいと ほご 生徒の母語			ご語		
せいと ざいりゅうしかく 生徒の在留資格			⑤					
※〇をしてください			えいじゅう ていじゅう かぞくたいざい にほんじん はいぐうしやとう えいじゅうしや はいぐうしやとう ほか 永住・定住・家族滞在・日本人の配偶者等・永住者の配偶者等・その他( )					
がいく 外国または 外国人学校 などでの 学習経験			※(ある・ない) →ある場合は下も答えてください。 がっこうめい 1 学校名⑥( ) がっこう しょざいこく しょざいち 2 学校の所在国・所在地( ) がくしゅうきかん ねん がつ さい 3 学習期間 _____年____月(____歳) ~ _____年____月(____歳) ※〇をしてください らいにちじき ねん がつごろ 4 来日時期 _____年____月頃					
ほごしや げんご 保護者の言語			めんだん ととき つうやく ひつよう 1 面談などの時、通訳は必要ですか。(いる・いない) →いる場合 _____ご語 ※〇をしてください つうやく ひつよう ほごしや せいと かんけい (ちち はは その他ほか_____)					
かぞく あいだ おも 家族の間で主に しよう げんご 使用している言語			ご語					

### 【記入上の注意】

- 日本語でどう読むか、読み方をカタカナで書いてください。
- 日本国籍の方(二重国籍含む)は戸籍上の名前を書いてください。  
外国籍の方は「在留カード」のアルファベットを書いてください。
- クラスで呼ぶ名前など、正式名とは別に使いたい名前がある方は書いてください。
- 複数の国籍を持つ方は全部書いてください。⑤日本国籍の方(二重国籍含む)は在留資格の記入は不要です。
- 外国の中学校を卒業した方は学校名を書いてください

# 「在県支援会議」について

## 1. 在県外国人生徒支援会議の意義

在県外国人生徒(以下「在県生徒」とする)は、日本人の生徒以上に多様な経歴や家庭環境に置かれている場合が多く、在県生徒を受け入れている本校としては、そのような生徒が日本の社会で生き抜いていく力を培うための支援を行わなければならない。

このような在県生徒の生活基盤と学習基盤とを安定させるために、どのような方策をとればよいのかを検討する機関として、在県外国人生徒支援会議(以下「在県支援会議」とする)を置くこととする。

## 2. 在県外国人生徒支援会議の構成要員

- ・管理職 1名
- ・生活支援G 1名
- ・未来企画G在県担当者 2名
- ・キャリア支援G 1名
- ・各年次在県担当者 3名
- ・学習支援G 1名

\* 状況に応じて、各年次、日本語講師、多文化コーディネーターなどの人員を加えることとする。

## 3. 在県外国人生徒支援会議の構成員と所掌業務

管理職	在県生徒枠を備えた高校である以上、全校生徒に対し、よりよい学校生活の環境を整備する。
在県担当者 (未来企画)	在県生徒および外国につながる生徒に対してどのような取り組みをすべきかを検討・提案をする。各年次での在県生徒の状況を把握し、管理職や教育開発内での相談や対策に関する提案を行う。また、その他にさまざまな事態における事務処理などを行う。 ・取り出し授業の状況の把握と生徒の異動の提案(各年次での検討依頼) ・日本語講師・多文化コーディネーター・サポーターなどの活用方法の検討 ・在県生徒向けのカリキュラムの検討(科目と実態の不一致の改善など)

<p>在県担当者 (各年次)</p>	<p>各年次の在県生徒および外国につながる生徒の把握およびその状況の観察をする。生活習慣の安定していない生徒がいた場合に、その詳しい状況の把握と年次や在県支援会議での情報共有と対策を検討する。 科目選択や進路についての相談を受け、ビザの資格などを照らし合わせた上で助言を行う。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣の乱れの原因究明とその改善に向けた方針とサポート</li> <li>・クラスでの居場所作りのサポート</li> <li>・学校行事への取り組みのサポート</li> </ul>
<p>生活支援G</p>	<p>日本人生徒の生活支援と同様に、在県生徒に対しても根気強いサポートを行い、在県生徒の生活習慣の改善に努める。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣の乱れの原因究明とその改善に向けた方針とサポート</li> </ul>
<p>キャリア 支援G</p>	<p>ビザの資格の関係で、就労に制限のある生徒がいる場合もあるので、そのチェックを行う。進路の把握と相談を受け、適切な科目履修などの支援を行う。</p> <hr/> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビザの資格と本人の進路希望についてのチェックと助言</li> </ul>
<p>全体</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本人・保護者・担任からの相談を受けた場合に、その対策の検討を行う</li> <li>・取り出しの授業の状況の把握と生徒の異動の提案(各年次での検討依頼)</li> <li>・学校行事への取り組みのサポート</li> </ul>

\* 在県支援会議の会議は、少なくとも月1回は実施する(短時間でも良い)

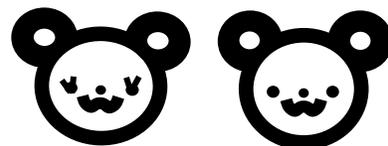
在県生徒は、毎年 10 人の定員枠であるにも関わらず、家庭環境の悪化や学校生活への意欲の低下などから、欠席が増えて退学になっている生徒も出てきている。個々の生徒にふさわしい進路(キャリア)の実現を支援するため、最大限状況を把握するように努めることとする。かまい過ぎず、放置し過ぎず、生徒が自身で学校に安定して通える状況を獲得するためのサポートを行う。

# いろいろなサポート

こべつ  
じゅぎょう  
個別授業

つうやく  
通訳

にほんご  
日本語



ほしゅう  
補習

かき  
こうしゅう  
夏期講習



たぶんかきょういく  
多文化教育コーディネーター



にほんご せんせい  
日本語の先生

## 個別対応授業について

☆「取り出し授業」とよぶことも...

プレイメントテストにより個々の生徒について次のように対応

教科ごとに

- ①個別対応授業
- ②個別対応授業で様子を見る
- ③一斉授業で様子を見る
- ④一斉授業

### 1 個別対応授業を実施している科目

1年次...国語総合・現代社会・数学Ⅰ・数学A・化学基礎・保健・家庭基礎

2年次...現代文A・古典A・世界史A・世界史B・数学Ⅱ・地学基礎・生物基礎・保健

3年次...現代文B・日本史A・地理A・政経

- 2 一斉授業から個別対応授業、個別対応授業から一斉授業への変更  
定期試験の結果等を考慮し、教科担当者の判断で変更するケースもある（生徒の希望ではない）  
⇒在県支援会議に報告

# 個別対応授業(令和2年度実施例)

科目名 学年、必修・選択の別	単位数	日本語指導に関わる配慮や工夫
国語総合 1年 必修	4	レベル別に3展開。レベル1, 2については日本語指導、レベル3については国語総合の教科書へとつながられるよう、日本語と国語を統合した内容で指導している。レベル1, 2は『みんなの日本語』等の日本語教材を使用、レベル3は国語教材をもとに自主作成プリントを使用。
現代社会 1年 必修	2	プリント等にルビ振り、説明は易しい言葉遣いをこころがける。試験にも文にルビを振り、表現を易くして。記号で解答できるようにする。
数学Ⅰ 1年 必修	2	TTで授業を進める。数学関係の用語の表を作る。内容は中学の復習から行う。時に用語を英訳して示す。テストにはルビを振る。
数学A 1年 必修	2	ほぼ、数学Ⅰと同様。
化学基礎 1年 必修	2	クラスを2つに分けた。プリントにはルビを振る(器具の名称など)。計算問題は易くした。実験を一般クラスより多く行った。
保健 1年 必修	1	教科書の知識よりも、全体として生きていく上で必要な内容を扱った(例: 病院では何科に行くか)
家庭基礎 1年 必修	2	絵、写真、動作を利用し、あるいは実物を見せて、内容を伝えた。内容は一般クラスと同じ。テスト前に補習を行った。試験は一般クラスの内容の一部を出し、選択肢を選びやすくした。
現代文A 2年 必修	2	日本語のレベルで2クラスに分け、能力試験N2・N3レベル相当の語彙と読解を中心に行った。
保健 2年 必修	1	保健1年とほぼ同様。
生物基礎 2年 選択必修	2	プリントにはルビを振り、説明は易しい日本語を使う。また日本語で説明したことを母語に直させ、母語で説明できるかを確認した。
地学基礎 2年 選択必修	2	ルビつきプリントを用意し、教科書と同じような図版を多くした。また、映像や写真、実物(石など)に利用した。実験も行い。時に英語で補足説明をした。
数学Ⅱ 2年 必修	3	プリントのルビ振り丁寧な説明をした。生徒の日本語力に応じて対応した。内容は一般クラスと同じである。
古典A 2年 文系必修	2	プリント等にはルビを振り、説明は易しい言葉遣いをこころがけた。授業の内容は日本の文化などに接することができるようトピックを工夫した。試験にも文にルビを振り、解答しやすいよう配慮した。
世界史A 2年 理系必修	2	プリント等にはルビを振り、説明は易しい言葉遣いをこころがける。試験にも文にルビを振り、表現を易くして。記号で解答できるようにする。
世界史B 2年 文系必修	3	プリントにルビを振り、映像を多く活用した。試験にもルビを振り、答えやすい問題を作成した。
現代文B 3年 必修	3	N2レベルの読解教材を扱った。プリント等にルビを振り、文章は必ず音読させるようにした。
政治経済 3年 選択	2	プリント等にはルビを振り、説明は易しい言葉遣いをこころがける。試験にも文にルビを振り、表現を易くして。記号で解答できるようにする。
地理A 3年 選択	2	板書などの漢字にルビを振り、説明は易しい日本語で行う。英語がわかる生徒には英単語で説明を補う。
日本史A 3年 選択	2	教材として『こんにちは日本の歴史』を用いた。

こべつ  
じゅぎょう  
個別授業

こくごそうごう すうがく すうがく かがく き そ  
国語総合・数学 I ・数学A・化学基礎

げんたいしゃかい かてい き そ ほけん  
現代社会・家庭基礎・保健



はいりこみ  
入り込み



T T  
チーム  
ティーチング

ねん くみ くん じかんわり  
1年1組 A君の時間割

	月	火	水	木	金
1	こくごそうごう 国語総合	すうがく 数学A	こくごそうごう 国語総合	すうがく 数学 I	じょうほう 情報
2	えいご C英語 I	かていきそ 家庭基礎	じょうほう 情報	こくごそうごう 国語総合	げんたいしゃかい 現代社会
3	たいいく 体育	えいご C英語 I	かていきそ 家庭基礎	すうがく 数学A	こくごそうごう 国語総合
4	かがくきそ 化学基礎	たいいく 体育	げんたいしゃかい 現代社会	ロングホームルーム LHR	たいいく 体育
5	ほけん 保健	さんぎょうしゃかいと にんげん 産業社会と人間	かがくきそ 化学基礎	おんがく 音楽 I	すうがく 数学 I
6	えいぶんぼう C英文法 I	さんぎょうしゃかいと にんげん 産業社会と人間	すうがく 数学 I	おんがく 音楽 I	えいご C英語 I



ねん くみ      くん じかんわり  
**1年1組 B君の時間割**

	月	火	水	木	金
1	こくごそうごう 国語総合	すうがく 数学A	こくごそうごう 国語総合	すうがく 数学 I	じょうほう 情報
2	えいご C英語 I	かていきそ 家庭基礎	じょうほう 情報	こくごそうごう 国語総合	げんだいしゃかい 現代社会
3	たいいく 体育	えいご C英語 I	かていきそ 家庭基礎	すうがく 数学A	こくごそうごう 国語総合
4	かがくきそ 化学基礎	たいいく 体育	げんだいしゃかい 現代社会	ロングホームルーム LHR	たいいく 体育
5	ほけん 保健	さんぎょうしゃかいと にんげん 産業社会と人間	かがくきそ 化学基礎	おんがく 音楽 I	すうがく 数学 I
6	えいぶんぽう C英文法 I	さんぎょうしゃかいと にんげん 産業社会と人間	すうがく 数学 I	おんがく 音楽 I	えいご C英語 I

A君とB君



にほんご      じゅぎょう      こべつ      ちが  
**日本語のレベルで、どの授業が個別クラスか違います。**

## 定期試験について

・必要ある者には

- ①同室同問題でルビ(ふりがな)つき
- ②同室で一部差し替え問題
- ③同室別問題
- ④別室別問題

## 評価について

- ①一般生徒と同一の授業を受けている場合は、同一問題(ルビはあっても)を実施し、同一基準で評価する。ただし、学習への取り組みを考慮する。
- ②③一般生徒と同一の授業を受けていても、教科担当者が同一形式の問題が実施困難であると判断した場合、外国人生徒の日本語能力や知識に合わせた形式・内容の問題を実施することができる。また、同一基準で評価することが困難である場合学習への取り組みを考慮し、別基準で評価することができる。
- ④個別対応授業をしている科目では各教科で設定した到達目標と照らし合わせ、学習への取り組みを考慮して評価する。

## 日本語学習について

- ・国語科教員と専門の日本語講師による授業（国語総合）や補習、学習支援員による放課後補習など、多くの学習の機会が設けられている。
- ・2年次3年次では「日本語Ⅰ」「日本語Ⅱ」「日本語Ⅲ」「日本語上級」という選択科目が設置されている。ひとつの目安として卒業時までには日本語能力試験N1、N2の取得が目標。

### 日本語学習を実施している科目（令和2年度実施例）

科目名	単位数	担当教員	科目の内容や特徴、展開上の工夫
国語総合 1年必修	4	担当1:常勤、教諭、国語科 担当2:常勤、教諭、国語科 担当3:非常勤、日本語講師	レベル別に3展開。 レベル1, 2については日本語指導、レベル3については国語総合の教科書へとつなげられるよう、日本語と国語を統合した内容で指導している。 レベル1, 2は『みんなの日本語』等の日本語教材を使用、レベル3は国語教材をもとに自主作成プリントを使用。
日本語Ⅰ 2年選択	2	担当1:常勤、教諭、国語科 担当2:非常勤、日本語講師	レベル別に2展開。 生徒の日本語レベルに応じ、日本語能力試験N3、N2の合格を目指す。
日本語Ⅱ 2年、3年選択	2	担当1:常勤、教諭、国語科 担当2:非常勤、日本語講師	生徒の日本語レベルに応じ、日本語能力試験N2、N1の合格を目指す。
日本語Ⅲ 3年選択	2	担当1:非常勤、日本語講師	生徒の日本語レベルに応じ、日本語能力試験N2、N1の合格を目指す。
日本語上級 3年選択	2	担当1:非常勤、日本語講師	生徒の進路希望をふまえ、小論文やレポート作成、プレゼン等に必要な日本語を指導。

### 放課後補習

日本語講師、学習支援員、常勤教員で補習を実施。週3回 放課後1時間半程度。学習習慣をつけることも目的の一つ。

## 進路について

- 語学力を生かしたいと国際関係の分野を希望する生徒、親の仕事を手伝うために経済・経営の分野を希望する生徒、自身の興味から情報の分野を希望する生徒などさまざま、AO入試・推薦入試を使って大学や専門学校進学を希望する生徒が多い。
- 卒業時に進路先が未定の生徒、日本でアルバイトをする生徒、日本ではなく母国に戻って大学進学をめざす生徒もいる。
- 在留資格が「家族滞在」の生徒は、そのままでは正規の就職ができない(週28時間までのアルバイト)、日本学生支援機構の奨学金が受けられない、といった不利な点が多く配慮が必要。

ただし令和3年3月25日法務省通知により、一定期間日本の教育を受けていれば在留資格を「定住者」や「特定活動」に変えて就労できるという「救済措置」がつけられた。

# 在県生徒を支援してくださる支援者 ～外部機関との連携～

○ME-net 「多文化共生教育ネットワークかながわ」

県教委と協働し、外国につながる生徒の支援をしているNPO団体。

○多文化教育コーディネーター

ME-netに所属。高校と相談し、外国につながる生徒へのサポートを企画・実施。

○CEMLA(セムラ) 多文化学習活動センター

県立高校10校と相模女子大学、ME-netで運営協議会を構成

県央地区・相模原地区の日本語を母語としない生徒に対して必要な教育支援を行う

CEMLAスクール(毎週土曜日に相模女子大で日本語支援・学習支援)、CEMLAセミ

ナー(研究セミナー)、CEMLA研究会(情報交換等)を実施。